

常時コンサートが可能なJリーグアリーナの建設

トップスポーツマネジメントコース

5017A304-8 井ノ口 弘彦

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 【研究の背景】

欧州では、サッカースタジアムが変容を遂げ、ザンクト・ヤコブ・パルク（スイス・バーゼル）やリコー・アリーナ（英国・コヴェントリー）のように福祉施設やホテル、ショッピングセンターとの機能共有化による採算向上の動きがあるが、GLAY のマネジメントをしていた筆者にとっては、1998 年ヘルレドーム（オランダ・アーネム）や 2001 年フェルティンスアリーナ（ドイツ・ゲルゼンキルヒェン）のように、常時コンサート開催を可能とするスタジアム、すなわち、アリーナ型で屋根付き、可動式サッカーフィールドが敷設され、サッカーによる収入よりもむしろコンサートの収入を主たる収入とする流れが出てきていることに注目した。

米国においても 2006 年ユニバーシティオブフェニックススタジアム（アリゾナ州グレンデール）、2009 年 AT&T スタジアム（テキサス州アーリントン）のようにコンサートを主力収入源とする屋根付きアリーナ型スタジアムが建設されている。

コンサート事業者の目で日本を見ると、コンサート会場不足は著しく、事業者にリスクの高い屋根無しスタジアムが地方都市でも使用される。コンサート市場では、2016 年度基礎調査報告にて成長推移した総売上額は前年比 97%に減少した。主な要因は、会場不足による大型会場での公演数の減少である。既存のサッカースタジアムは、収容人数はマッチしているが、気象面や騒音、芝の養生費が高額等の理由からコンサートではあまり利用されていない。

2017 年時点で、Jリーグ発表では 11 カ所でスタジアム建設の検討がある。現在の計画には何らかの資金計画があることが想定される。そこで本研究では、欧米のように常時コンサートを可能とするスタジアムの全部のコストを主としてコンサートでまかなう可能性を明らかにすることではなく、計画される Jリーグスタジアムがアリーナ型に変更されることにより発生する追加コストをコンサートでまかなえるかどうかについて検討する。先行研究では、新藤ら (2015) の Jリーグ基準に沿ったサッカー専用スタジアムの建設・整備に求められる要件に関する研究はあるが、コンサートの収入に着目し、アリーナ型サッカースタジアムの追加建設コストの投資回収について論じた研究はない。

2. 【研究目的】

本研究は、常時コンサート可能な Jリーグアリーナの建設の可能性を明らかにするため、Jリーグスタジアムをアリーナ型へ変更するための追加建設コストが、どの様な要件によって、主としてコンサート収入によって投資回収をすることができるのかを明らかにすることを目的とする。

3. 【研究手法】

Jリーグは 15,000 人以上収容を J1 リーグ基準として掲げていること等から、本研究では一律に 2 万人収容スタジアムを前提とした。ここで、自治体が建設したアリーナの管理を運営会社に委ね、運営会社からの利益で建設費をまかなうこともあるが、本研究では運営会社へのコンサート事業者からの会場利用料等の支払いは直接自治体の収入となると仮定する。

半構造化インタビューと文献調査を行った。調査対象と内容は、(1)屋根付き可動式サッカーフィールド完備スタジアム建設実績のある大手建設会社に対して、基礎構造、外周壁、アリーナ型屋根、可動式サッカーフィールドのそれぞれの工法と費用を聞いた。(2)コンサートプロモーターに対して市場、各種スタジアム、アリーナコンサートの収支等を聞いた。(3)文献調査により既存施設の稼働状況を調べた。

4. 【結果 1】

①20,000 人の Jリーグアリーナの総建設費は概算で表 1 に記載した金額となり、追加コストは概算で 100 億円であった。

表 1 建設費用（単位、億円）

	費用
基本構造（下部・スタッド構造）	80~90
外周壁	20
固定屋根敷設費（金属屋根）	20
補強費（屋根構造、サッカーフィールド [*] 、 収出口客席構造補強）	20
寒冷積雪地域対策費（屋根補強、 空調）	20
可動式サッカーフィールド [*] （台車方式）	20
スタジアム総建設費 計	180~190

②可動式サッカーフィールドのランニングコストについて調査した結果、札幌ドームの用途別 1 往復あたりの可動費用が 1~2 百万円で、稼働回数はサッカー試合時の可動のみで年間約 20 回、よって年間のサッカーフィールド可動及び維持費用は平均で 45 百万円であった。

5. 【結果 2】

屋根の特徴による稼働状況、コンサートでの収入、コンサート事業者の経費負担を明らかにするため、3つの屋根の特徴別に以下の通り分析を行った。

① 屋根付きアリーナ

Jリーグアリーナと同等規模のさいたまスーパーアリーナの利用料金を調査した。スタジアムレイアウト9.5百万円、メインアリーナレイアウト6百万円であり、利用目的に応じた料金設定の工夫がされていた。更に、イベント開催者のニーズに応じた可変式レイアウトなどの施策により高稼働率を達成していることがわかった。また、2016年以降に開催された5公演(本開催10日、設営撤去9日)のコンサート資料では、収入額は172.9百万円であり、1日の平均収入額に換算すると会場基本料(本開催、設営日合算)5,1百万円、延長料金1.0百万円、付帯設備費3百万円であり、合算すると9.1百万円であった。

② 屋根のない横浜国際総合競技場等、これらの施設で2010年以降に開催された4公演で支払われた会場利用料の1日の平均額は約37百万円(付帯設備利用料、加算料、設営・撤去日利用料含む)であった。更に、屋外開催でのリスク対策等の人件費で運営費がドーム球場コンサートの約1.5倍であることがわかった。また、サッカースタジアムコンサートでは、芝生上でのステージ、客席設営となるため、芝の養生費が発生する。横浜国際総合競技場等での4公演における芝生養生費の1日の平均支払額は18百万円であり、開催者の負担になる。

③開閉式屋根付きサッカースタジアムの開場以来のコンサート実績は豊田スタジアム21公演(34日)、御崎公園球場1公演(1日)、大分スポーツ公園総合競技場4公演(5日)であり、コンサート稼働は少ないことがわかった。要因は屋根無しのサッカースタジアムと同様に収容数が大きすぎることや芝生養生の問題であった。

6. 【考察】

①Jリーグアリーナは稼働日が多くリスクの少ないため、年間稼働日数と1日あたりの利用料金を高める。スタジアムの収支は好転し、コンサート主催者も支出を抑えられる。サッカーの開催にも支障がない。

②追加工事費用の100億円は、回収期間を30年で考えれば、年間12.5公演(25日)のコンサート実施で回収できると推察される。そ

の根拠は以下の試算による。

5公演における施設収入の1日分の平均となる9.1百万円(会場基本料、延長料金、付帯設備利用料の合算)にチケット総収入額に対する加算料5%の徴収も行えば、観客15,000人規模で6百万円分追加され、表2の試算表記載のコンサート事業者には利益率を確保可能な2日間開催1公演あたりの施設収入は合計30.2百万円となる。公演やイベント等の利用日がさらに増えれば、利益が見込まれ、前向きな投資が可能となる。

③Jリーグ基準のスタジアムの新設において、アリーナ型屋根と可動式サッカーフィールドが導入されるならば、これまでのリスク要因は解消され、コンサートや各種イベントが常時開催されることとなる。更には寒冷積雪地域のクラブを中心に反対議論されてきたJリーグの秋春制移行も再考の余地がうまれることも考えられる。

④全国に常時コンサート可能なJリーグアリーナの建設がされる将来においては、各スタジアムにおいてコンサートを年間相当数開催できるようにJリーグ本部事務局が、ツアーマネジメント機能を持つことも重要である。そのため、スタジアムの設計において、コンサート設営を各スタジアムで異なることによるコスト増をさけるため、ある程度の仕様統一が必要となる。

⑤Jリーグアリーナの屋根や外周壁設備は、寒冷積雪地域における冬期試合の安定開催以外にも、ゲリラ豪雨、雷、台風のリスクも低減させる。更に、近年重要性が増す、大規模災害時の避難所としての防災機能も期待できる。

⑥本研究は金利や資材価格の変動等やスタジアムを設置する地域の人口条件等も考慮していないことに留意する必要がある。

7. 【結論】

20,000人収容のサッカースタジアムの建設において、アリーナ型屋根と可動式サッカーフィールド完備のための追加コストは、15,000人規模のコンサートを13組のアーティストが年間2日間ずつ実施することにより、30年で投資回収が可能である。

Jリーグアリーナは、コンサートツアー会場不足の解消のみならず、寒冷積雪地域のクラブを中心に反対されてきたJリーグの秋春制移行にも新たな議論の前提を与える。

表2 スタジアム・アリーナコンサートの収入構造と施設収入試算表

(チケット代は8,000円を前提とする)

会場収容数 (人)	公演 日数	チケット 総収入	制作費	現地経費	施設利用料 (付帯設備、延長+加算料5%含む)	事務所 利益
10,000	1	80	30	20	10+4	16
10,000	2	160	55	30	20+8	47
15,000	1	120	50	30	10+6	24
15,000	2	240	85	45	20+12	78
20,000	1	160	70	35	10+8	37
20,000	2	320	110	60	20+16	114